

「糖尿病治療薬(オゼンピックとリベルサス)の有効性に影響を与える因子の検討」 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合センター・医療法人社団大岡会 光クリニックでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年5月24日 ～ 2025年3月31日

〔研究課題〕

経口および皮下注射セマグルチドの効果や副作用発現を規定する因子の解析

〔研究目的〕

GLP1 受容体作動薬である経口セマグルチドのリベルサス®と皮下注射製剤のオゼンピック®は、腎保護作用や心血管イベント抑制作用を有する優れた2型糖尿病の治療薬です。従来のGLP1 受容体作動薬と同様に、血糖改善作用や体重減少効果も認められます。しかし、このような血糖や体重に対する効果は個人差が大きく、どのような因子が影響するのかが明らかになっていません。また、一般にGLP1 受容体作動薬では、消化器症状などの副作用が認められることがありますが、どのような因子が副作用の発現に影響を与えるかもわかっていません。そこで、本研究では、リベルサス®およびオゼンピック®の有効性と副作用に影響を与える因子について明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

副作用をきたすことなく、セマグルチドの高い有効性が期待できる患者さんをより明確にし、実臨床においてセマグルチドを有効活用するための有益な情報が得られると考えています。

〔対象・研究方法〕

2型糖尿病と診断され、2022年1月～2023年4月にリベルサスまたはオゼンピックを使用中の方を対象としています。一般診療として得た糖尿病とその合併症、併存疾患に関する情報をカルテ上から収集します。また、定期外来で行う採血や尿検査の結果を用いて検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター第三内科
医療法人社団大岡会 光クリニック

〔個人情報の取り扱い〕

研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせて頂くことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報は全て削除され、プライバシーは守られます。また、本研究に関する情報は研究終了後、帝京大学臨床研究センターに10年間保管され、保管期間終了後に情報を廃棄します。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：井上 大輔 職名 病院長・教授
研究分担者：井上 玲子 職名 講師
所属：帝京大学ちば総合医療センター第三内科(内分泌代謝内科)
住所：市原市姉崎 3426-3 TEL:0436-62-1211(代表) [内線 2011]